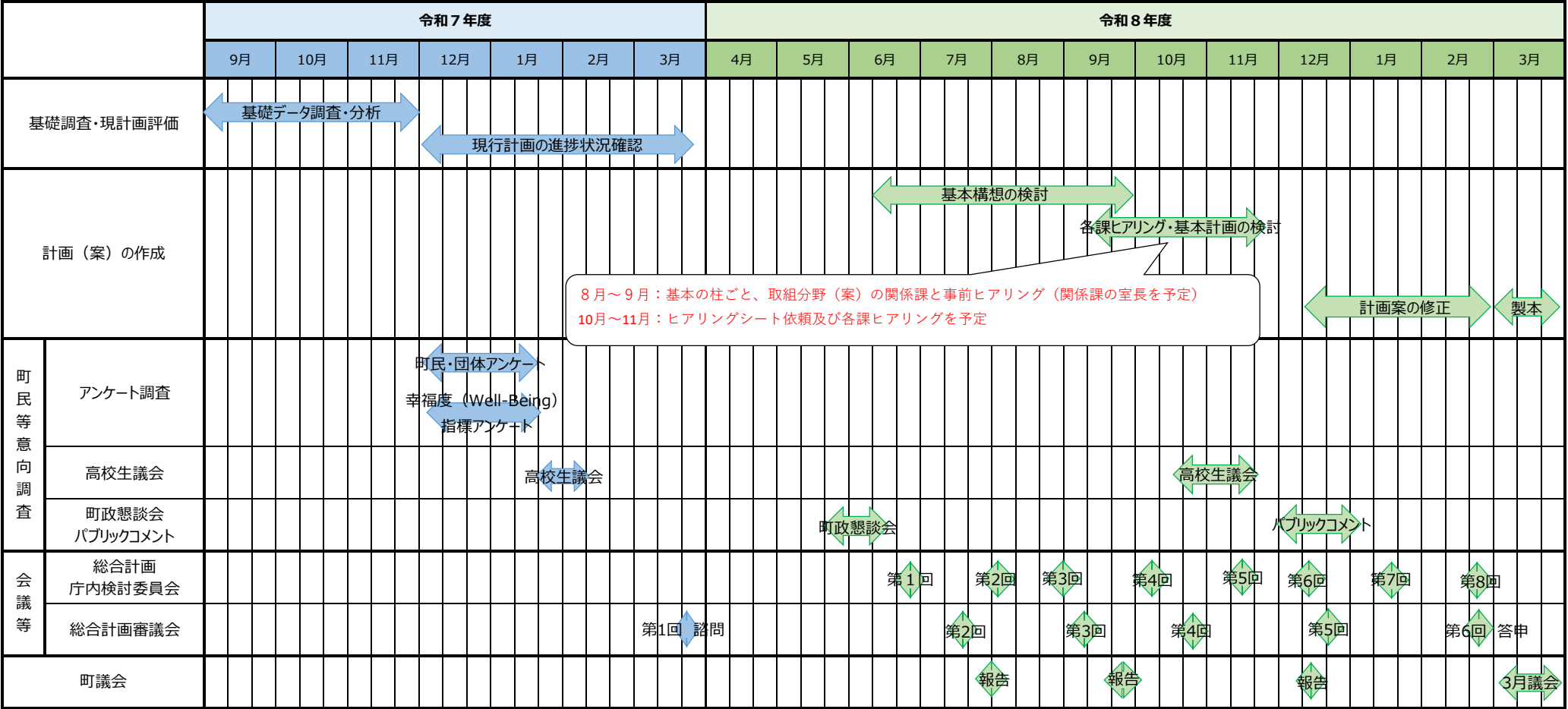


第3次川根本町総合計画策定スケジュール（案）



【川根本町総合計画審議会の開催概要】

回数	開催時期	主な審議内容
第1回	令和8年 3月23日（月）	・総合計画策定（諮問） ・次期総合計画策定について ・策定スケジュール（案） ・各種調査結果報告（町民アンケート）
第2回	令和8年 7月9日（木）	・現行計画の評価結果報告 ・人口ビジョン（案）
第3回	令和8年 9月1日（月）	・基本構想（素案） ・基本計画（素案）

回数	開催時期	主な審議内容
第4回	令和8年 10月頃	・基本構想（案） ・総合計画（素案） ・総合戦略（素案）
第5回	令和8年 12月頃	・総合計画・総合戦略（案） ・総合計画策定（答申案）
第6回	令和9年 2月頃	・パブリックコメント結果 ・総合計画（答申）

第3次川根本町総合計画基本構想（骨子素案）イメージ図

1. 計画の目次構成（案）

序論

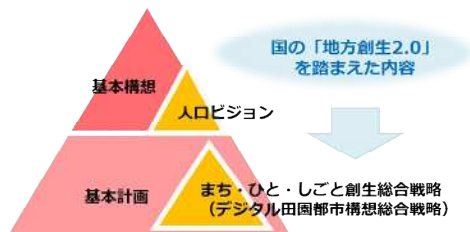
第1章 計画策定にあたって

（1）策定の目的

社会情勢の急速な変化に対応し、人々の幸福度（ウェルビーイング）の考え方を取り入れながら、当町が目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための町政の中長期的な指針となる「第3次川根本町総合計画」を策定します。

（2）計画の構成

本計画は、「基本構想」及び「基本計画」で構成します。なお、当町が推進するまちづくり全体の一体性と実効性を高めるため、地方創生を目的とした「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体の計画として策定します。



（3）計画期間

計画期間を令和9年度～18年度までの10年間とします。

なお、基本計画については時代の潮流の変化に対応するため、計画期間を5年間とし、中間年で見直しを行います（前期基本計画5年、後期基本計画5年）。

第2章 計画策定の背景

（1）社会状況

- 人口減少・少子高齢化 ●物価高騰 ●価値観等の多様化 ●デジタル技術の進展
- 気象災害の激甚化・頻発化 等

（2）川根本町の現状と課題

- 川根本町の強み（豊かな自然環境、貴重な歴史文化資源、豊富な観光資源等）
- 川根本町の弱み（人口減少・少子高齢化、公共交通の利便性、災害の危険性等）

（3）町民意向

- 住みやすさの評価、定住意向
- 川根本町のよいところ、よくないところ
- 川根本町の重点課題（満足度・重要度） 等

基本構想【目標年次：令和18年度】

第1章 計画において大切にすること

（1）総合計画における視点

第2章 将来像・基本理念

（1）将来像

（2）基本理念

第3章 基本の柱

総合計画における視点

- ウェルビーイング（幸福度）の考えを取り入れたまちづくり
- 社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり
- 川根本町らしさを生かしたまちづくり

将来像・基本理念

将来像：10年後のまちの目指す姿を設定

基本理念：次期総合計画が目指すまちづくりの基本理念を設定

基本の柱

基本の柱：分野ごとのまちづくりの方向性を示すもの

人口ビジョン【対象期間：令和42年度】

第1章 人口ビジョン

人口ビジョン

目指すべき将来の方向性を示し、自然増減や社会増減に関する見通しを立て、町の将来の人口を展望

基本計画（前期基本計画）【目標年次：令和13年度】

第1章 基本の柱ごとの取組（基本方向・施策の方向）

第2章 計画推進のために

国の「地方創生2.0」
を踏まえた内容

基本計画

まち・ひと・しごと創生総合戦略
（デジタル田園都市構想総合戦略）

2. 基本理念・将来像・基本の柱について

基礎調査における川根本町の特徴と現状

<強み>

- ・長年住み続け、**町に愛着のある人が多い**
- ・豊かな自然環境
- ・元気な高齢者が多い
- ・人と人とのつながりがある
- ・地域コミュニティの強さ
- ・豊富な観光資源
- ・伝統文化と歴史の継承 等

<弱み>

- ・若い世代を中心とした人口減少、少子高齢化の進行（低い水準の合計特殊出生率）
- ・産業力の低下
- ・公共交通の利便性が低い
- ・買い物、暮らしの利便性向上
- ・自然災害のリスク 等

基礎調査におけるまちづくりの課題

- 町民にとって暮らしやすさの維持・向上が図れるまちづくり（インフラ整備、地域コミュニティの維持、公共交通や生活利便性の向上 等）
- 安全・安心に暮らせるまちづくり（自然災害に強い地域づくり 等）
- 若者・女性、子育て世代に選ばれるまちづくり（強みである豊かな自然環境や教育環境の良さを町内外へ発信、雇用の確保、U・Iターンや定住・移住促進 等）
- 活気があり、産業の振興が図れるまちづくり
- **地域資源を生かした**観光振興や賑わい創出が図れるまちづくり 等

町民アンケート（R7.12）

◆町民にとって幸せな暮らしとは？（世代別）

【こども】学校が楽しい、家族の笑顔、遊び場が充実、**地域とのつながり**がある 等

【若者】就職先がある、娯楽施設がある 等

【子育て・働き盛り世代】自由に働ける（子育て支援の充実）、買い物しやすい 等

【高齢者】**コミュニティ（人とのつながり）** 等

◆川根本町ならではの幸せな暮らしとは？

○豊かな自然、景色、歴史文化

○**川根本町が好きという思い**

○**つながりを感じられる**、地域との交流がある

☆買い物、飲食、遊び場、バスが増える

☆医療体制の確保 等

○：川根本町にあるもので、今後もあり続けてほしいと思うこと

☆：今後こうなったらいいと思うこと

町長インタビュー（R7.11）

- ・川根本町を未来へ残す取り組みを実施したい
- ・人づくり、活力づくり、魅力づくり。引き続き計画の主眼としたい。
- ・地域コミュニティの重要性
- ・SDGsとデジタル化への対応
- ・防災・減災対策
- ・地域の強みと活用
- ・教育環境の充実

町長マニフェスト

- 1 安心・安全な暮らし**
 - 安心・安全を確保
- 2 産業の創意・工夫**
 - 産業を振興
- 3 人口減少・地域活性対策**
 - 定住・移住を促進
- 4 子育て・教育**
 - 楽しく安全に成長できる環境の整備
- 5 財政健全化**
 - 未来に繋げるための既存事業の見直し

第3次川根本町総合計画における視点

<視点>

（1）人々の幸福度（ウェルビーイング）の考えを取り入れたまちづくり

（2）社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり

- ・出生数の向上や社会移動を増やす等、人口減少対策への取り組み
- ・社会情勢の急速な変化に対応し、町民が心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりへの取組

（3）**川根本町らしさを生かしたまちづくり**

- ・**川根本町の特性や地域資源を生かし**、まちの魅力をより一層高め、広げる取組
- ・町民や川根本町に関わる人が、**まちに愛着や誇りを持てる**まちづくりへの取組（シビックプライドの醸成）
- ・町民や民間事業者等と連携した、まちの活性化に向けた取組

（4）町民の所得向上

基本構想(イメージ)

将 来 像 (第2次川根本町総合計画)

水と森の番人が創る癒しの里 川根本町

～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～

基 本 理 念 (第2次川根本町総合計画)

- ひとづくり ～地域への誇りと愛着、豊かな才能を持った人があるれるまち～
- 魅力づくり ～だれもが暮らしやすいまち～
- 活力づくり ～豊かな生活を支える活力をつくる～

基 本 計 画 (第2次川根本町総合計画)

基本の柱 1	基本の柱 2	基本の柱 3	基本の柱 4	基本の柱 5	基本の柱 6	基本の柱 7	基本の柱 8
川根本町の強みを活かすプロジェクト	人口減少の克服を目指すプロジェクト	地域を支えるひとであるれるふるさと	安心して元気に暮らせるふるさと	快適に安心して暮らせるふるさと	自然・歴史と共に暮らふるさと	住民主役の地域づくりが盛んなふるさと	お茶と温泉、活気ある産業に満ちたふるさと
		(教育・文化)	(健康・福祉)	(生活環境・基盤整備)	(自然・環境・伝統)	(住民参加・行政運営)	(産業・労働)